毛利十一代史

第十三册

246
42
23

自元祿九年
至同十年

毛利十一代史

第十三冊

青雲公記

毛利十一代史卷之三十一

大田報助編

青雲公記三

元祿九年丙子正月公江戸邸ニ在リ歳首ノ儀例ノ如シ

六日市川長右衛門去朔日芝田町失火之時消防ニ盡力セシヲ以テ銀壹枚下付

十四日毛利和泉守光廣女勝子（稻葉駿河守正脩室）卒ス年四十五

十五日御弓鐵炮之モノ及町人諸士ニ對シ不敬且足輕中間萩城二ノ郭木履ニ關シ訓令左ノ如シ

覺

一御弓鐵炮之者對諸士慮外不仕候樣にとの儀は先年も被仰出候然は御城二之曲輪より内え足輕御中間等木履はき候儀一切停止被仰付候事

元祿九子正月十五日

明治
43.10.26
寄贈

覺

一町人共對諸士慮外不仕候樣にとの儀は前々被仰出候然上は縱令見世棚に居候共行規能慮外之體不仕候樣に手堅可被申付候若不作法之體於仕は一廉可被仰付候以上

元祿九子
正月十五日

二月十四日麻布邸附近辻番所ニテ負傷犬ヲ發見シ死亡セリ依テ閣老阿部豐後守ヘ公儀人平川忠兵衛ヲ以テ報告セラレシ口上書左ノ如シ

口上覺

昨朝四時過松平大膳大夫麻布下屋敷近所松平三河殿上り屋敷之横町より白毛之男犬疵付候て參候付此方辻番之者早速罷出辻番所へ入置犬醫をも手遣仕長谷川五右衛門樣へ御屆仕候處御步行目付衆御小人目付衆被差越見聞被仰付候犬醫共付置養生致させ候へ共疵重今朝損申候其段も早速佐久間小左衛門樣へ御屆仕候處損犬片付候樣にと被仰渡則屋敷內へ片付別條無御座候右之趣致參上御自分樣方へ致御物語候樣にと申付候以上

二月十四日

松平大膳大夫內
平川忠兵衛

二十日大小目付ニ令ス德川十五代史

覺

一支配方兼て養子願有之節筋目も能申立之譯も聞え御條目相違無之養子に候者書付幷判元慥に相改請取之翌日御城え罷出老中え可被相達候用番宅え被參不及被申聞事

一品も有之わかりかたき分け之養子に候者夜中にも可被申聞事

一喧嘩又者兼て不被申聞候て不叶品者不限晝夜早速可被相達候事

二十八日公例月ノ登營アリ謁見後閣老來朔日將軍講談拜聽アルヘキ旨ヲ傳フ

同日長泉寺境內借家ニ奸惡人ヲ住居セシメ又借家ハ一竈之內表裏二竈之外禁止ノ法ナルニ之ニ違反シタルヲ以テ遠島ニ處ス

三月朔日公登營白書院ニ於テ將軍之周易講說ヲ拜聽セラル二度目ノ拜聽ニ因リ將軍ヘ献物ナシ聽講ヲ祝シ阿部豐後守柳澤出羽守松平右京大夫林大學頭生鯛一折宛贈ラル（松平右京大夫側用人ナリ）

四日將軍ノ君夫人ニ生鯛一折献セラル蓋聽講ヲ祝スルナリ

日不詳毛利內膳元平着府

四月朔日閣老ヨリ公初入國賜暇ノ內命アリ

二日毛利飛驒守元次着府

九日毛利甲斐守綱元着府

十二日閣老公儀人ヲ召シ四月十六日ヨリ上野ニ於テ嚴有院殿十七回法會ニツキ諸大名其外參詣日限、着服、香奠員額ニ關シ書付四通授與セリ其文率ネ前規ニ同キヲ以テ略ス

公四月二十五日江戸發途ニヨリ使者ヲ以テ香銀二十枚納付セラル

同日先年預附島田淡路父子上野法會ニツキ歸府請願ニ關シ公儀人ヲシテ閣老ノ意旨ヲ伺ハレシニ是認ヲ得ザリシ

十四日將軍閣老戸田山城守ヲ使トシ歸國暇ヲ賜フ銀五百枚時服五十下サル翌十五日公登營拜謝將軍ニ謁ス馬ヲ賜フ

十八日公就封ノ暇ヲ賜ヒ且嚴有院殿法會モアリ日光山參詣出願許可アリ

是日公啓行ノ期近ニアリ閣老ヘ伺書提出左ノ如シ

覺

一京都小笠原佐渡守殿え御付屆自分可參ト存候尤京都一宿仕儀にては無御座候

一鷹司前關白殿不遑間に御座候付而彼地え罷越候節使等被差越參候樣にと被申越候は佐渡守殿得御簡管可參候哉先代も右之通仕候

一大坂着仕彼地より各樣迄以飛札前々奉伺御機嫌候此度も其通に可仕候哉

一國元より爲伺御機嫌前々各月に使者飛脚を以國者一種宛致獻上來候此已後も其通可仕候哉

一右之通國元より使者飛脚を以獻上物仕候節被成御奉書候右之御請脇々も無御

座之由に付前々再答不申上候此後も其通に可仕候哉

一來年參勤時分何頃相伺可然候哉

一今度初而致入國候間如前に國中境目をも見聞可仕と奉存候

一先年古大膳大夫島田淡路同孫助御預ケ被成古大膳大夫長門守歸國之節は相伺上候相對仕候此度罷下相對仕候ては如何可有御座候哉

一國元より迎船萬一大坂上り合不申候はゝ於大坂町御奉行乘え御屆仕着岸迄大坂に少は逗留仕義も可有御座候

右之趣御差圖次第に仕度奉存候以上

四月十八日　　松平大膳大夫

十九日毛利内膳元平江戸ヲ發シ五月十一日歸邑

二十三日江戸邸宗門改役小寺五兵衛山縣平右衛門任命ニッキ宗門奉行ヘ報告ス

二十三日吉川内藏助家臣ノ足輕ニ發狂人アリ江戸ヨリ岩國ヘ護送ノトキ關所通行手判ニ關シ公儀人天野新兵衛ヨリ留守居大久保玄蕃頭ヘ提出書付左ノ如シ

亂心男一人手鎖打足かね同板乘物に鎖おろし從江戸周防國岩國迄差越申候間箱根今切兩御關所無相違罷通候御手判可被下置候右は松平大膳大夫家來吉川内藏助召仕足輕之者にて御座候以來此亂心男に付出入御座候者私申披可仕候爲後日證文差上申候仍如件

元祿九年丙子四月二十三日　　御名　天野新兵衛（印判）（書判）

大久保玄蕃頭様
彦坂壹岐守様
堀田河内守様
岡部丹波守様
北條安房守様
中根大隅守様

二十五日公日光山參詣ノ爲メ江戸ヲ發シ二十八日拜禮直ニ五月朔日板橋ヨリ品川驛ニ至リ東海道ヲ經テ歸國ノ途ニ即ク

隨從江戸當役國司與三兵衛大組頭益田隼人江戸留守居桂八郎兵衛大家老毛利市正

日不詳諸臣士宜等ニ關シ江戸老臣訓示左ノ如シ

覺

一御家來之面々土產物之儀前々より御法度候此節之事候間猶以物限之內をも可被差置候然共無據儀におゐては親子兄弟伯父伯母甥姪聟男之間えは成程かろき物有合に遣可被申候其外之親類諸傍輩間えみやげもの一切停止被仰付候事

一今度被差下候面々も御儉約之內之儀候條於御國は猶以諸事令勘略料理等之儀も江戸にて被差免候物通り之外えは雙方案內之振廻互に被仕間敷候然共無據內談等有之時分によつて常住のかろき料理貳參人は給相可被申候多人數集候儀は可被致用捨事

一於道中諸所川越賃從公儀被仰付候は御供連の當番計御跡究迄を物切に被仰付儀候たとひ御供連にても遲參の者は不及沙汰候事

元祿九子四月日

國與三兵衛

毛市正

五月四日大島郡屋代妙見宮坊、日、見村西向寺、長樂寺、涅盤像幷鐃鉢所有ニ關シ告訴狀審査ナリシニ三ケ寺共有タルヿハ慶安元年二月十八日社人中連判ノ證文ニ判然タリ然ルヲ妙見宮坊專光一ケ寺專有ト申告セシハ暴慢ノ爭論非法タルニ因リ遠島ヲ命ス

六月朔日公三田尻着船三日三田尻發船山口ニ至リ館ス

四日公山口ヲ發シ大谷口ヨリ馬ニ騎シ寅牌城ニ入ル

同日毛利大藏ヲ出府歸國ノ恩ヲ拜謝セシム

五日浮浪田中宗有藩民三井安右衛門兩人閑老ヘ訴訟ニ關シ吉廣公記所載左ノ如シ

御老中大久保加賀守殿ヘ田中宗有ト申浪人於御國三井安右衛門ト申合訴訟ノ趣有之由ニテ卷物持參候處加賀守殿ヨリ大目付衆ヘ被差出候樣ニト被申聞候故仙石伯耆守殿ヘ持參仕候書物貳冊壹冊ハ當公方樣御政道正敷段奉祝壹冊ハ御國ニ

居候藝州浪人松岡九郎右衛門ヲ今時珍敷賢人ノ樣ニ申立此外殿樣御爲惡敷儀ハ
且而不申上候通リ御尋之節申出候
此儀別記ニ委事の品は如何樣歟不知候田中養白と云浪人醫者濱崎邊に居候此
者を使者に仕立江戸え遣黑塗の封箱眞紅の緒付にして御老中御連名にして公
方樣御政事能長門國萩にて松岡九郎右衛門と申賢人出來の通御悅爲可申上之
折樺目錄の獻上仕候由にて御用番の御老中え差出申候處御老中御仰天にて早
速公儀人被爲召候て此趣御內意有之候故いか樣に可申付哉の段相窺候へは御
悅を申上候儀必竟品を越候義其外誤は無之候間念を入被置可然はゞ樣之類國
々より有之事候間迷惑不仕樣に致候へとの儀に候余は略之（付內本ニ爲翁書記ニ委トアリ此注書爲翁說ヲ拾カ可考）
證人所日帳に三井安右衛門事兒玉十兵衛屋敷に被差置無給士六人え御
預け尤足輕御中間をも手子にして數多被成御附候之儀相見候
六日公步行初トシテ國司與三兵衛宅ニ臨ム
十二日泰巖公百回忌法會修セラル

十六日公入城ヲ祝シ諸臣ニ謁ヲ賜フ十八日僧侶社人謁見
二十一日頃幕府倒犬飯米市內ヨリ課出セシムルニ因リ吾藩邸京橋三十間堀屋敷割
賦金兩所ニテ正月ヨリ六月ニ至ル半年額小判貳拾五兩支出セシヲ江戸留守居桂八
郎兵衛ヨリ通報アリ
二十五日負傷鴨ニ關シ大目付公儀人ヲ招キ授與セシ書付及請書左ノ如シ
當五月十九日小石川御門之外御堀端之道に的矢を負候鴨飛來落候右之鴨射候も
の有體に可申出候若見及承及候もの於有之は是又可申出候隱置脇より相知候は
ゝ可爲越度候右之趣家來等迄入念可被致僉議候尤組支配之面々えも此段可被相
達候以上
六月
請書
當五月十九日小石川御門之外御堀端之道に的矢を負候鴨飛來落候御僉議に付被
仰聞候趣奉畏松平大膳大夫家中下々又ものに至迄遂穿鑿候處鴨射候者無御座候

尤見及承及候者怪敷者も無御座候以上

六月晦日

仙石伯耆守様　　松平大膳大夫内留守居
前田安藝守様　　國司庄左衛門
神尾備前守様

七月二日眞宗僧了壽ナルモノ幕府へ直訴ヲ爲シタル結果京都本願寺ヨリ吾藩邸へ交付シ本願寺ヨリ了壽へ命令書左ノ如シ

長州萩了壽え被仰渡之趣

其方儀先年國法相背候付流罪之處其後蒙御赦免令歸地之由就夫頃萩表致出奔御本寺えも御屆不申關東罷下寺社御奉行所へ罷出無筋目儀願上候段千萬卒爾成仕合重疊不屆被思召候尤急度可被仰付候へ共此節御國主御入部之節に候故御宥免被成則萩役人衆迄被相渡歸地被仰付候間有難可存候向後我儘之働無之萬端可相慎者也

七月二日

五日新六尺採用ニ關シ老臣ヨリ遠近方へ訓示左ノ如シ

覺

一新六尺之儀者人足所に被召拘たる者に候故仕役何に而も不仕と申事者無之候若否申候はゝ則可被召放候事

一跡職と申儀無之相果候者は夫迄にて其御恩を以身柄健成者被召拘候事

一病者なとにて御用に不立者は縱歳久敷者に而も則入替被仰付候事

一於御國被召拘候者有之時壹人入候はゝ望之人柄四五人肝煎撰候而遠近方え召連罷出候上閣取に被仰付候事

付他國者不被召拘候事

右新六尺御國え罷下居候者有之時者右之辻を以各筆者え支配可被申付候以上

元祿九子
七月五日

佐主殿

國　與三兵衛

吉井平右衛門　左
藏田孫右衛門　左

八日令ス德川十五代史

覺

一吹直金銀段々出來寄候間誰人ニ不寄所持之古金銀兩替屋方エ聞合無油斷新金銀ト引替可申候吹直金銀出來之上者古金銀通用可爲停止之間可被得其意候次灰吹銀モ吹直候間同前ニ可被心得候以上

一今度本郷ニテ金銀吹直候場所ノ外一切金銀吹直申間敷候自然脇々ニテ吹直候者有之又ハ似セ之金銀拵候者有之バ早速訴人ニ出ベシ縱同類タリトモ其科ヲユルシ急度御褒美被下仇ヲナサヾル樣ニ可申付之若カクシ置後日ニ外ヨリアラハルヽニ於テハ其身ハ不及申諸親類幷所ノ者迄可爲曲事者也

コレ金箔ノ運上ヲ納メ又似セ金銀ヲ嚴禁スル始メナリ通用ノ金銀其位ヲ失シニヨリテ姦僞アランコトヲ慮リテ也

十日高家六角越前守廣治ユカリナキ諸大名ノ方ヘ往來シ官事漏洩セシ由聞エテ職ウバハレ逼塞命セラレ采邑七百石削ラルコレハ桂昌院尼ノユカリニツキテ請托ヲ入レ內謁行ヒシ罪ニヨリテ也此人水戸藤井德昭カ姦計ニモ關涉セシ人也ト云フ德川十五代史

同日大目付留守居ヲ招キ君夫人桂昌院御袋鶴姫君ヘ進献又ハ拜受品ノトキ拜禮之次第參覲又ハ家督官位加增等ノトキ閣老其他ヘ謝禮等ニ關シ授與セシ訓令左ノ如シ此令ハ老中井出羽守右京大夫列座ニテ急度可相守樣殊ニ念入違背ナキ樣ニ申渡サレタリ

覺

一御臺樣桂昌院樣御袋樣鶴姫君樣え不依何品進上物被仕候はゝ老中出羽守右京大夫え相窺差圖次第可被差上候外之むきより被上候儀無用之事

一右御女中樣方より拜領物被仕候時は老中出羽守右京大夫え御禮可被參事

一參勤又は家督官位御加增等之音物幷献上之御殘老中出羽守右京大夫若年寄衆之外は無用之事御禮被參候儀も同前但御側衆芙蓉之間御役人御目付衆等えは

前々之通可被心得事

一隠居之節幷遺物等は老中出羽守右京大夫若年寄衆之外無用之事

一惣而不依何事願候儀は老中出羽守右京大夫え可申候其外えは一切無用之事

附支配有之面々は支配方え可被申事

右之趣諸大名始諸奉行諸役人え被申傳候向後堅被守候樣可被相達候以上

子ノ七月九日

一京都所司代　大坂御城代幷御定番　御本丸女中衆

右附届ハ前々之通可被致候巳上

當時外戚ノ權勢盛ンニ女寵モ甚シク賄賂行ハレ私謁ノ弊少ナカラザリシヲ以テカクハフレラレシ也

十二日公天守要害ノ規式ヲ終リ同晩一門ヨリ城代ニ至ル饌膳ヲ賜ヒ囃子五番ヲ奏セシム

十三日吉川内藏助廣紀萩ニ卒ス三十九歳法諡普恩院此時勝屋十右衛門ヲ以テ開老へ報告セラレシニ八月二十六日跡職ハ公ニ一任スルトノコト十右衛門エ命令アリ依テ宍戸十郎兵衛ヲ使トシ家督之事岩國ニ訓示セラル于時吉川廣達二歳ナリ二十二日君夫人桂昌院へ進献及飼犬ニ關シ大目付ヨリ授與訓示左ノ如シ

覺

一御三人方甲府殿より御臺樣桂昌院樣御袋樣鶴姫君樣へ進上物相定候分ハ不及御窺可被差上事

一右の御方々樣より被進物之御禮も前々之通可被成候事

一別紙書立候面々桂昌院樣え不時の進上物可被上候其節ハ本庄因幡守え相達進物は三丸御廣敷え可被差上候尤其段月番老中えも可被申達候事

一桂昌院樣寒暑の節其外御機嫌窺本庄因幡守宅迄前々より被窺候面々は勝手次第可被相窺事

一桂昌院樣より拜領物被仕候面々は因幡守方へも御禮に可被參候事

一御袋樣え戸田彈正義は不時にも進上物被仕候節月番老中へ相窺進物は御袋樣

御廣敷へ可被差上候事

以上

子七月二十二日

覺

桂昌院様え上り候端午重陽歳暮御祝儀物幷參勤繼目等の進上物御臺様御同前に御本丸にて相納可被申事

子七月二十二日

覺

一知行取飼置候犬知行所召遣し度候はゝ無遠慮差遣入念養育可申付事

一居屋鋪に飼置候犬下屋鋪等え遣度者は是又勝手次第遣之入念可申付事

一小給の面々飼置候犬御犬小屋え遣度存候ものは支配方へ相伺可任差圖事

以上

子七月

二十三日君夫人桂昌院へ進献ニ關シ閣老へ申告書左ノ如シ

覺

御臺様え獻上物年始歳暮重陽歸國參勤御祝儀之外國物國肴之類又は何にても有合の物大形例月伺御機嫌旁獻上仕候此段は在府の節右の通御座候在國之節は毎月獻上物不仕兩月に一度程宛差上候事

桂昌院様え獻上物年始歳暮端午重陽の御祝儀之外毎月之獻上物不仕候何そ御祝事御座候節獻上物仕候儀も御座候事

御袋様鶴姫君様えは只今迄獻上物不仕候以上

松平大膳大夫内

國司庄左衛門

七月二十三日

覺

先年御臺様御本丸え被遊入御候節古大膳大夫長門守より獻上物仕候儀は御由緒御座候付而其節酒井雅樂頭様え奉伺候處被聞召屆對御由緒獻上物不苦之由被仰出候付而夫より以來代々年始歳暮端午重陽歸國參勤之御祝儀申上且亦月次奉伺

御機嫌候刻も御肴獻上仕來候桂昌院樣え之獻上物之儀は近年六角越前守樣御差圖を以差上申候以上

松平大膳大夫内
國司庄左衛門

七月二十三日

晦日本所深川屋敷改ニ關シ大目付授與書付左ノ如シ

覺

一今度本所深川も屋敷改被仰付候間向後求屋敷地子屋敷等作事仕候は先達屋敷改え相伺可被任差圖事

一唯今迄有來屋敷坪數幷家作坪數之書付屋敷も改之方え可被出證事

一寺社百姓町人其外拘屋敷家作改之儀は江戸廻之通に候事

右之旨被仰出者也

子七月晦日

八月五日京師飢饉ニ由リ町人家持ニ毎戸米二斗ヲカシ三年ニ上納セシム德川十五代史

六日大城ニ於テ能舞ノトキ毛利甲斐守綱元命ニヨリ春日龍神ヲ舞フ檜ノ重箱ヲ賜フ

十日ヨリ十二日ニ至ル諸臣ニ料理ヲ賜フ二十一日ヨリ二十三日ニ至ル能舞場ヲ開キ諸臣及町人ニ縱觀セシム

能舞ニツキ諸臣ヨリ祝品進獻足輕以下諸郡人民ヘ樽料下付アリ事ハ大記錄卷七十一ニ詳ナリ

十一日城近キ所ノ火災ニハ火消役五組ハ大手内櫻田雉子橋一橋門外ヘ馳集マリ目付ノ指圖ヲウケ城中ニ入リ火防スヘシ大廣間舞臺ハ書院番頭大奥ハ用人幷廣敷番ノ頭留守居ノ輩見廻ルベシ火消二組ハ常ニ二ノ丸ニ宿直セシム德川十五代史

十七日令ス德川十五代史

覺

一酒に醉心ならす不届仕もの粗有之候兼てより大酒仕義停止に候得共彌以酒給

候義人々相慎可申事

一客等有之候而も酒給候義無用事

附酒狂之もの有之候はゝ酒給させ候ものも可爲越度事

酒商賣仕もの連々減候樣に可仕事

右之通急度可相守於令違背者可爲曲事もの也

二十五日公初テ歸城老臣へ臨恩之トキ料理其外規定ニ關シ當役中ヨリ訓示セリ概ネ前格ニ同キヲ以テ略ス

二十八日大奥ノ條約ヲ定メ老中土屋政直若年寄秋元喬知廣敗ニイタリテ之ヲ老女ニ渡ス寛文ノ令條ヲ斟酌增減スル所ト云

日不詳此月頃犬ヲ飼養スル爲ニ其費金ヲ市中ニ賦課ス德川十五代史

覺

一今度町々ヨリ指上候御犬之出金割付之儀其町々沽券平均通一丁目木原屋敗ヨリ南新堀拜借屋敗迄ハ小間一間ニ付金三分ツヽ割付ニテ一町ノ上ケ金高相極メ一ケ年兩度指上候筈ニ被仰付候間此旨相心得右之小間割之通リニ可仕候町人自分ノ了簡ニテ角屋敗中屋敗ノ高下ヲ立テ割付金子出候町々有之由相聞候左樣ノ割付仕町々有之候ハヾ角屋敗中屋敗共ニ一ケ年ニ金三分ツヽノ割合ニ仕角屋敗ヨリ多ク出候分ハ中屋敗ノ者方ヨリ角屋敗ノ者へ相返シ可申候自今以後角屋敗中屋敗沽券高下ニ無構御極之小間割ニ割付可申候此旨相心得相違アルマシク候也町中連判樽屋へ納ム

九月八日吉川勝之助廣逵父廣紀ノ家督ヲ繼ク相府年表

日不詳中旬吉川勝之助家督之事使者ヲ以テ傳命セラルヽニ因リ吉川式部ヲ萩ニ出シ拜謝セシム

十八日將軍如柳澤保明邸召荻生茂卿命議論司馬溫公疑孟令林信篤詰談焉風馬集

二十六日振舞婚禮其外規定ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一振舞之儀服忌懸る間柄之外者案内之振舞互に被仕間敗通先頃申渡候雖然案内

不時共聟男姉聟妹聟伯母聟姪聟孫聟從弟聟或者行合兄弟あいやけ相聟養子之親又伯父又伯母又甥又姪從弟分此外女かた忌懸る迄は縱古緣者たりとも可被差免候又契約間寄親も可被差免候將又祈禱之連歌等執行之時も連衆等可被差免候又諸藝稽古之衆師匠振廻仕候時者相弟子共外四五人迄は可被差免候事

一婚禮相調候時者前々之分候事

一家督幷契約等共外祝儀事之振舞仕候時者或共家之惣領筋或者共家之末家共外樞機有之他人間たり共申請候儀不苦候事

一寺方之儀無緣所之儀者不及沙汰候又寺領持と候而も小身之寺方者且方共外之助成ならては不參候客申請候もひとつは寺建立之ために候故小身之寺領持は不及共沙汰候限有之寺領持之儀者諸士同前たるへく候若不相叶子細有之而案内之振舞仕候歟又者御定之外多人數於申請者共段追而亭坊より寺社奉行え付屆可被仕候事

一相役數多有之衆御用に付而寄相候時者御定之外之人數に而も料理給相候儀不苦候然共共段追而亭主より組頭衆より御目付衆え付屆可被仕候事

一夜會之儀者御定之夜食にて四五人迄は可被差免候然上は猥に無之樣可被仕候事

一萩廻川向に而之振廻も萩内可爲同前事

右之通可被相守候以上

元祿九子

九月二十六日

日不詳下旬吉川勝之助家督ヲ祝シ使者ヲ以テ刀一腰太刀爲代黄金拾兩時服三襲二種一荷ヲ献ス

二十九日公國内巡撫ノ爲メ萩ヲ發ス

日不詳此月消防之制ヲ定ム德川實紀長文ヲ以テ略ス

十月七日幕府烏見職ヲ廢シ生類憐愍之禁令ヲ發ス德川實紀其文略ス

九日公德山ニ入ル吉川勝之助家臣香川權右衛門ヲシテ肴一種ヲ献シ巡國ニ隨從セ

シム

十一月二十日（云十一日）明正院上皇（本院ト稱ス）崩御（後水尾院姫宮寶算七十四）海内音樂ヲ停ムルコト三日是ヨリ後ハ唯靈元上皇御一所在マスノミコレヲ仙洞御所ト稱シ奉ル

十三日江戸大地震十六日大火吉廣公記

十五日將軍近年日光社參アルヘキヲ大城ニ於テ閣老ヨリ列侯ヘ訓示セシヲ江戸ヨリ牒報アリ

十八日未牌公歸城

十九日大目付公儀人ヲ招キ鳶烏移シニ關シ授與セシ書付左ノ如シ

覺

一只今迄鳶烏所々に而うつさせ候得共差而滅不申候間面々屋敷にても申付手前にてうつさせ候てかこに入山本藤右衛門佐原十左衛門方え遣可申候尤烏之痛不申候樣に念を入可申候飼つけ候とて烏類なと用申間敷候事

一惣而鳶烏屋敷の内に彌巣をかけ不申候樣にはらはせ可被申候事

一鳶烏うつし候とて外の烏類えは障不申候樣に隨分念を入可申候事以上

十月　日

別紙ニ

覺

正月　四月　五月　九月　十二月

右五ヶ月ハ移の樣子有之間山本藤右衛門佐原十左衛門方え日限可被聞合候

一二月　朔日　八日　十七日　二十日　二十四日

一三月　三日　八日　十七日　二十日　二十四日

一六月　八日　十七日　二十日　二十四日

一七月（七日　十六日）（八日　十七日）（十三日　二十日）（十四日　二十四日）　十五日

一八月　朔日　八日　十七日　二十日　二十四日

一十月　八日　十七日　二十日　二十四日

一十一月　同斷

右の日限には鳶烏移し不仕候以上

二十一日切支丹宗門檢査請狀宗門奉行へ提出セラルトキ（依テナリ）定例ノ宗門檢査書ハ公在府ノ縁上セリ今回ハ初入國ニ

二十三日寺社奉行大目付町奉行勘定奉行ニ命シテ地圖ヲ作ラシム御國繪圖ト云（德川十五代史）

二十五日今回本所深川新地屋敷改ニツキ吾藩深川鮒一ニ鰒トアリ澤屋敷ハ先年鎌倉屋平右衛門名代ナリシカ去々年死亡セリ依テ種々交渉ノ末鎌倉屋ヨリ吾藩出入ノ町人竹屋九兵衛ナルモノヘ此屋敷ヲ讓リタキヲ代官所新地奉行所ヘ申請シ認可ヲ得テ帳簿モ竹屋九兵衛ニ改正シ名代變更結了セシ旨江戸ヨリ通牒アリ

今回鮒澤屋敷之繪圖坪數等報告書ハ名代變更以前ニアルヲ以テ内海屋小左衛門弟源兵衛ナルモノヲ雇ヒ奉行所ニ提出セシム

十一月四日公深川入湯ニ赴カル

五日桂二郎右衛門組作右衛門阿武郡三見市出火ノトキ消防ニ盡力速ニ鎮火セリ公巡國之途次休憩近傍ニ當ルヲ以テ銀貳兩賞與ス

二十五日本院御所崩御ニツキ表番頭神谷勝右衛門ヲ京都ニ遣シ香銀拾枚ヲ納付セシム

十二月七日毛利飛驒守元次松平播磨守頼隆女縁職願許命アリ

十日毛利内膳元平嫡吉太郎淸末ニ卒ス二歲

十四日大目付公儀人ヲ招キ服忌令追加之書付授與左ノ如シ

付札ニ如此

最前追加に出候父計之養子ケ條此通可書改之

一父計の養子は母えは服忌無之母計之養子は父えは服忌無之養兄弟姉妹は相互に半減の服忌可受之此外養方の親類服忌相互に無之實方親類の服忌は定式の通可受之

付札ニ如此

此ケ條新規に入之候間右之次へ可書入候

一母の祿を受候子は母方の親類も父方同然に服忌可受之惣而女より祿を受養

子に罷成候ものは遺跡相續養子の通服忌可受之

付札ニ如此

右同前

一離別の女はたとひ實子有之他え不嫁候共夫婦の緣きれ候故相互に服忌無之

半切

別紙ニ如此

是も付札ニ如此有之

是は爲心得之間服忌令に書入に不及

父方之祖母之父母曾祖母之父母は母方に候間服忌無之遠慮一日

右兩通書付は最前發布ノ服忌令へ記入スベキヲ江戸ヨリ國元へ通牒セリ

二十四日毛利内膳元平室夜發熱疱瘡ニ罹ル

二十六日來春女御入内ニ侍從幷十萬石以上京ニ献物ノ制ヲ仰出サル（德川實紀）其文略ス

二十九日大目付公儀人ヲ招キ女御入内ニツキ禁裏へ進献之員額書付授與左ノ如シ

御入内ニツキ献上物之覺

禁裏へ　御太刀馬代黄金三枚

女御へ　白銀二十枚

以上

月日不詳　吉廣公記

吉川宍戸出入有之岩國へ國司與三兵衛被差越御家賴中拾六石掛リ御馳走出米被仰付

松平大膳大夫

當島宰判鐵砲札ヨリ内開作被差留開作開立石盛相成候分モ上地被仰付別所替地被下候

元祿八亥五月ヨリ同九子四月江戸御發駕迄御在江戸諸事小々之控目錄抜萃左ノ如シ（原記錄散逸）

吉川内藏助堅ケ濱開作之事

三十間御厩屋敷燒失之事
大津郡向津船と肥前船と出入之事
仙洞樣へ雲谷家繪調差出候事
黃梅院穆殿改衣之事
壽德院御三年忌之事
松賴母樣御婚禮付而今井御道筋堅之事
繁澤平左衛門御門切手突遣之事
內藤紀伊守樣御前樣御屋敷御求被成候事
吉川內藏助殿御奧方有馬入湯之事
西園寺中將樣御緣組之儀に付而西邨和泉守より賴來候事
井伊播部頭殿御息女婚禮御調之節辻堅之事
尾州宮に而內田正內所本陣御替被成候事
元祿九子十丑御在國中諸事小々之控目錄拔萃左ノ如シ原記錄散逸
長崎御奉行へ御入國爲御付屆御使者被差越候事
天下御位牌へ御參詣之事
御入國以後菩提所之御寺へ始而御佛參之事
滿願寺へ初而御參詣之事
御船藏へ初而御行步之事
毛利左門元服に付御契約之事
おかん樣初而御城御出之事
御入國爲御悅江戶從上々樣御祝儀物之事
住吉祭禮上覽之事
御家賴中御目見之事
小幡仁右衛門父子手前之事（於越前御家法相背候に付而也兵部樣御付也）
島田殿父子へ御土產物被遣其後御下被成候事
初而御入國に付諸事御用宗道玄審へ被仰付候事

越ヶ濱へ初而御越被成候事
毛利六郎左衛門方追而御料理被遣候事
おかん樣へ始而御下り之事
駒井勘左衛門幷秀岳院檜崎左助手前々之儀ニ付從日光御門跡御侘言之事
洞春樣御證月ニ付於御城出家中御齋被遣候事
毛利六郎左衛門川屋敷へ被成御下候事
阿部豐後守殿御普請之節杉板御助成幷例年月見之御音信之事
公方樣爲伺御機嫌奥平勘右衛門被差上候事
春日祭禮上覽之事
河野九左衛門逼塞之事（途中ニテ御無禮仕候付テナリ）
黑谷淸心院ニ御先祖樣御位牌有之候付而御位牌料之事
淮文寺隱居高岩歸島之事
中所小兵衛逼塞之事（御目見之節御無禮仕候ニ付）

毛利十一代史卷之三十二

青雲公記四

大田報助編次

元祿十年丁丑正月公國ニ在リ新歲ノ儀前規ノ如シ
十二日公舊儀ニ由リ吉川勝之助及ヒ一族老臣ノ家ニ臨ミ歲首ヲ賀ス
十三日毛利內膳室苑掛酒湯式アリ
二十日大目付ヨリ明二十一日蔦島移シ禁止ノ回章至ル二十五日二十九日亦同シ
二十六日萩鶴江晉聲寺常念佛始ル（常念寺萬山和尙代也）
二十八日地江戶ニ於テ雇用奉公人給銀制限ニ關シ當職町奉行ニ訓示左ノ如シ

覺

一江戶御番手衆召拘候奉公人組付以下之若黨之儀は見掛能物を書算用をも心得第一達者成者に候はゝ恩銀百五拾目迄には召抱候樣に右之廉々不足之者は恩

銀段々に引下召拘候之樣に中間之儀は男柄能第一達者にて道具なと能持馬なと能取なやみ中間之仕役心得たる者に候はゝ恩銀百四拾目迄には召拘候樣に右之廉々不足之者は恩銀段々に引下け召置候之樣にとの儀は先年よりの御定に候就中今年之御番手衆なとは御仕組之內と申諸士中も逼迫之事候間右御定之恩銀よりも引下太抵並之奉公人にて候はゝ下直なる者を召置下人に物入無之樣に仕御番手堅固に相勤候樣に面々可有覺悟候若此段忘却被仕御儉約之中をも不顧面々逼迫をも不厭若黨中間草履取ともに男柄旁之撰を仕召抱候衆於有之は御目付衆へ見分被仰付見屆次第其人可被及御沙汰事

付約束之恩銀之外何角之加恩并衣類等遣候儀彌御法度に候然上は御目付衆へ穿鑿被仰付相背候衆於有之は主從共に可被及御沙汰事

一御定より上之高恩を望奉公人於有之は早速申出候樣にとの儀は前々雖被仰出申出衆無之候面々爲勝手に候間全不加憐愍其者之名を記置早速御客屋迄可被申出候其奉公人は即御仕置に可被仰付候事

一作りひけ墨ひけ大もとゆひ毛巾着異形之體異形之衣類等堅御法度に候御目付衆へ見分被仰付相背候者於有之は其者即御仕置に可被仰付候依品主人も可爲越度事

一人屋付之奉公人は不及申或御弓鐵炮御中間通り或又家來之者之子其兄弟又は不通者たりとも右同前之沙汰たるへき事

一御國之奉公人并下女之儀も前々被仰出候分に候事

一右之通當町中えも手堅被仰付候若奉公人共謂合恩銀不相應之事を申又は奉公人を圍置諸士中え手を突せ候樣なる調儀仕者於有之は早速御客屋迄可被申出候其者は則御仕置に可被仰付候事

右之廉々相背衆於有之は一廉可被及御沙汰候尤奉公人之儀は即御仕置に可被仰付候御目付衆隨分見聞候て申出候之樣にと申渡候條組中えも手堅可被申渡候以上

右御家中逼迫之時節に候故御定より上之奉恩を取候奉公人不召抱候樣にと被

仰付候條書付之廉々、當所人屋共え其に被申聞奉公人身柄相當に恩銀を取せ諸士之痛に不相成樣に心遣可仕通可被申渡候殊御番手衆之儀は大小身共に人召連候はて不相叶事候故人に手を突候へは不及力身柄不相應にも恩銀遣召拘候樣に相成事に候是偏に人屋共の云爲に候若諸士の痛を不辨或恩銀御定より上を取せ或色々に準加恩を取せ又は奉公人を圍置人に手を突せ諸士の妨仕者於有之は不限人屋隨分穿鑿被仰付忽御仕置に可被仰付候此段人屋共え手堅可申渡候以上

元祿十丑
正月廿八日

兒玉七郎左衛門　佐主殿

二月六日江戸留守居桂八郎兵衛就澄死去毛利八郎左衛門雅信ヲシテ後任タラシム

同日萩城下唐樋町ヨリ橋本町ニ至ル道路四丁余之間士屋敷四十四軒左右家屋連續ニ由リ町屋敷ニ變更ノ稟議閣老是認セリ蓋シ近年諸臣頗ル窮迫又城下町屋敷狹隘ヲ告クルニ由リ此賣買ヲ許可セシナリ

十五日吉川勝之助水痘酒湯式アリ

十八日蓮華寺ニ於テ賭博セシ科ニ依リ蓮花寺外拾人閉門國退等ニ處ス

廿日諸臣知行所物切開墾ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一諸士中知行所畠田成の儀は去年已來被差免候然は知行所物切之内之開作をも今年より被差免候事

一知行所の外の開作望の儀は彌被差留候事

以上

元祿十丑
二月廿日

廿二日古六尺人員百六拾人規定ニ關シ御中間頭ヨリ遠近方へ申請（元祿九年十月朔日）及江戸番手借銀計算書ニ對シ（元祿九年十月三日）當職ヨリ遠近方及御中間頭へ訓示左ノ如シ

申上候事

一私組内以前は貳百六人罷居江戸御役相勤來申候處近年は追々他組え被拔取唯

今百六拾三人罷居申候人數纔に相成候ても先年の分に江戸御詰させ被成候故年々借銀重り殊の外内證もつかれ人別及難儀申儀御座候間來御番手よりは江戸御役二番に被仰付被遣候樣にと奉存候子細は江戸を四五ヶ年も直詰仕罷下休息も不仕折返翌年は又罷登申に付春暮兩度之仕上を銀大分に而問屋借彌增に重りはや組内なやみも不相成儀御座候委細別紙に書立懸御目候乍爾江戸御番手を被減儀も不被爲成御事に御座候はゝ以前より扱跡以御校丁人數御增候而江戸詰被仰付被下候歟乍無御座候はゝ御心付米諸組並に被遣此以後之扱跡御立候て御番手被仰付可被遣候大組十三組江戸御番手計相勤申候故扱跡被立遣儀御座候尤地之御役計相勤申組之儀は扱跡不被立遣組も御座候得共大組同前に江戸詰計仕儀御座候條右兩條之所御沙汰被成可被遣候此組之儀は何も御譜代筋目之者にて吉田より御供仕罷越申たる儀御座候條被加御慈悲且々取續奉遂御奉公候樣にと奉願御斷申上候間宜樣被仰上可被下候奉願候以上

元祿九子
十月朔日

佐々木四郎右衛門
藏田孫右衛門 印
吉井平右衛門 印 (遠近方)

江戸番手借銀近年之參懸覺

一銀五拾七匁五分
但當子の春江戸御番手に被差登候遣銀元五拾目問屋銀之分

一同四拾目
但當暮江戸仕登せ銀

一同拾五匁
但當暮於江戸御納戸銀借銀被仰付候分

以上百拾貳匁五分

右江戸登遣銀仕登御納戸銀共に當暮算用詰如此

一御切米三石

貳斗貳升八合
壹石貳斗九升
但米三俵を以於暮手取仕せ越年仕候分
殘而壹石四斗八升貳合
銀にして五拾九匁貳分餘
但和市貳石五斗之引當にして
差引殘而
五拾三匁貳分
但間屋借に相成候分
外
貳百八拾目餘
但壹人別間屋借年にかりかへ相滯之分
右江戸御番手之借銀に前廉より有來候間屋借引添當暮之借銀右之通御座候右之

御馳走米

目安は一ヶ年之江戸借にて御座候江戸三年詰仕往來四年振に罷歸其暮之算用仕
詰仕見申候得者江戸借計貳百四匁四分と相見申候翌年には又被差登候樣に御座
候付而借銀調寄せ申儀一圓相見不申候御番手々々に借銀重り申に付先々步之方
便一圓無御座候事
一江戸御番手貳番之格に被仰付候得は二年詰仕三年振に罷下其年より爰元に三
年罷居四年振に江戸被差登候得は貳番に相申候右之通に爰元に居候得者罷下
候年之暮より年々六拾八匁四分宛調寄申に付而三年振之暮算用詰差引殘江戸
借計銀六拾七匁五分之不足と相見申候斯樣被仰付候得は且々も取續可申と奉
存候以上

元祿九子
十月三日

吉井平右衛門殿　佐々木四郎右衛門
藏田孫右衛門殿

裏書

表書之通令僉議候處中出之通に被仰付候儀は不被爲成候然共六尺之儀は江戸番手繁人數減候而は令難儀段無餘儀候因茲六尺組唯今百六拾三人有之內百六拾人に相成候迄は此中之通に拔捨被仰付百六拾人之辻は永代拔跡御拘可被遣候間向後此辻を以可有沙汰候以上

元祿十丑
二月廿二日　藏田孫右衛門　左　佐主殿
吉井平右衛門　左

御方組之六尺近年拔跡不被立遣に付人數減江戸御番手繁令難儀之通書付之趣僉儀之上唯今百六拾三人有之內百六拾人に相成候迄は此中之通拔捨に被仰付百六拾人之辻は永代拔跡御拘可被遣候之間可被得其意候恐々謹言

元祿十丑
二月廿二日　佐主殿

佐々木四郎右衛門　左（御中間頭）

二十八日一門以下城下ニ於テ從者定ニ關シ當役中ヨリ訓示左ノ如シ

御城下にて常々人張

一若黨三四人
御一門老中
一若黨二三人
御一門之嫡子隱居
一若黨二人
老中之嫡子
組頭中
一若黨壹貳人
寄組中

一若黨壹人
組頭之嫡子隱居
寄組之嫡子隱居
出頭人
奥番頭
表番頭
御手廻大組御役人中
但右之外之諸士若黨可爲無用雖然馬所持之衆幷譜代之若黨拘居候衆就用事
壹人召連候段は勝手次第たるへき事
一年始歳暮節句日などにも右之人張不可有相違事
一火事其外不慮之儀出來之時は常々之人張一倍迄は不苦事
一老中之嫡子八百石以上之自身役は常之ありきに鑓不苦此外鑓無用之事
一御迎御見送に出候時常々乘替之馬所持仕父子共に馬上にて出候衆は嫡子も鑓不苦事
一御名代衆不依大小身鑓不苦事
一御迎御見送に出候時又火事其外不慮之儀出來之時馬上にて出候衆は勝手次第鑓不苦事
一御役人衆御役儀之時は鑓不苦事
付御目付衆用心番之物頭衆町奉行は常々鑓不苦事
一揃番之時は馬上にて不出衆も鑓不苦事
一女中乘物添之事表方之不可過人數事
付若黨不召連通り之衆之女中乘物添之若黨無用之事
一御一門衆之外供之押無用之事
右之辻來月朔日より堅可被相守候勿論右人張之内減少之分は不苦候若彼相背衆於有之は一廉可爲曲事候以上
元祿十壬
二月二十八日

御書付之奥に有之

一御名字之乗本人幷嫡子隠居も若黨召連候儀被差免候事

閏二月朔日一門以下從者定ニ關シ目付中ヨリ伺書ニ對シ屆書指令アリ略ス

同日大組頭益田隼人免職後役任命迄ハ大組ノ所管ハ月番ノ組頭へ命シ藤井五郎兵衛添役トシテ高木宇兵衛ヲ出仕セシム

二日去ル二十五日女御入内ニツキ（有栖川宮ノ卿ノ女ナリ）使者根來主水ヲ上京拜賀セシム是日參内禁裏へ太刀馬代黄金三枚女御へ白銀二十枚女院へ金千匹ヲ献セラル又傳奏其他町奉行所司代ニ進物差アリ

國　與三兵衛
佐　主　殿
毛　阿　波
毛　市　正
宍　志　摩

十四日城下ニ於テ從者ニ關シ御手回組頭物頭中八組頭中伺書ニ對シ肩書指令アリ
略ス

二十二日先年我藩ヘ因預島田淡路守病死ス（甲府家ノ家老ナリ）幕府ヘ報告ノ爲メ高須平之允ヲ出府セシム幕府陸目付天野忠左衛門本田又兵衛三月三日江戸發途四月七日萩着檢視了リ八日萩ヲ發ス淡路死骸ハ海潮寺ヘ埋葬セラル（舊記ニ淡路殿死去ニ付テ先ツ死骸ニ念ヲ入レ鹽漬ニ被仰付屋敷内ニ被差置番等被仰付江戸ヨリ檢視可被差下見聞相成候樣ニ手堅沙汰被仰付置候云々）淡路嫡子孫助江戸出入免サレ出府ノ後申請ニ依リ國元ニ來リ古萩馬場町ニテ屋敷ヲ付與シ淡路父子ヘ先年閑老内示アリ三十人扶持下付ナリシカ拾人扶持沒收向後孫助ヘ貳拾人扶持給與セラル

二十八日儉政發布ニツキ諸臣男女衣類幷饗應ニ關シ當役中ヨリ目付中ヘ訓示左ノ如シ

覺

一今度御仕組に付而御家賴中ヘ段々被成御意箇條を以も申渡候樣御家來儉約之

儀先年以來度々被仰渡候處端々不心得之者有之樣に相聞候間時節不相應之覺悟仕もの於有之は各見聞之所速可被申出候彌晝夜無油斷手子之者とも差廻見届させ可被申事、

一男女衣類幷振廻等之儀其外何によらす無心元樣子於有之は問糺可被申候たとへ樣子遠とかめ損候共御目付衆無念に相成間敷候條屋敷内之儀に候はゝ踏込可有沙汰事

以上

元祿十丑
閏二月二十八日

國典三兵衛
佐主殿
毛阿波
毛市正
宍志摩

御目付中

二十九日獵師之外殺生制禁ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

獵師之外殺生御制禁之段は前々より堅被仰渡候愈以諸士中相嗜一切無益之殺生被仕間敷候事

以上

元祿十丑

閏二月二十九日

三月朔日公萩發駕東覲（古例ニ由リ今日首途セラル）利市正宅ニ臨過セラル

陪從江戸當役國司與三兵衛大家老毛利市正大組頭井原大學

同日波多野源兵衛參勤に隨從ノトキ下人大助制禁ノ作法ヲ爲シタルヲ以テ銀貳兩ノ過料ニ處セラル

三日諸臣衣類幷經應婚禮等御留守中諸事省略ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一從先年度々被仰出候御法度之旨可被相守事

一近年御所帶御逼迫に付儉約之儀度々被仰出候ても從公儀濃々之儀は難被仰出候此節之儀候間勘略之品々面々被致僉儀存知寄可被申出候事

一於御國中諸侍衆衣類之儀從先年御定之辻を以無相違候乍此上當御留守中之儀は不依大小身もめんの類着可被仕事

付下着には古小袖苦間敷事

一女中方衣類之儀是又前々より御定有之候ても愈以下直成物着可被仕候此節之儀候間不應身體高直之衣類被求候儀停止之事

付歩行にてありき候女中方之衣類上着にもめん之類たるべし金入之帶停止之事

之事

一嫁娶之規式幷諸道具調之儀度々被仰出候愈以勘略之心得可被仕事

一當御留守中之儀は案内之振舞停止たるべし不時之料理出候時は如御定一汁二菜外に香の物肴一種何にても有合之物にて成程輕く可被相調候事

一節假振舞抔之儀は禮錢之取遣被差免程之近親類幷醫師外科針立其外相伴貳三

迄は不苦事

付家督振舞之儀は不苦候之間一汁三菜にて手輕可被仕事

付與頭其組子節飯振廻無用たるべき事

付新與頭其組子一通り之振舞は不苦尤一汁三菜御定之辻たるべき事

一衣類之儀は當五月五日より右之分に可被相心得事

一振舞之儀は今度御發駕當日より右之分に可被相心得事

右御家來中儉約之儀度々被仰出候得共愈以當御留守中は諸事被致勘略內證取續御役被相勤覺悟肝要候右之趣御目付衆えも手堅申渡候間被得其意組中えも可被申渡候以上

元祿十七
三月三日

四日男女衣類幷纓應又內之衣類等ニ關シ遠近方告示左ノ如シ

覺

一今度御目付衆えの御書出に男女衣類幷振廻等の儀其外何によらす無心元樣子於有之は問試候樣にたとひ樣子違とかめ損候共御目付衆無念に相成間敷候通被仰出候近年男女の衣類等無心元存候ても御家人又内の分り慥に無之をはとかめ不申通候申たる事に候へ共此度の御書出に付ては御家人又内の分り慥に極申に不及無心元分は見相にとかめ申首尼に御座候爲御心得申候事

一又内衣類の儀貞享五年に品定被仰出候年久敷儀候故爲御心得左に書付申候事

一又家來の衣類先年被仰出候分に彌もめんたるへし帷子は地布其外下直の物たるへし

付御一門衆の家老五六人夫より已下千石迄の衆家老は主人應分限或三四人或二三人或一兩人ひ之紬之羽織下着被差免候絹布の類はたとひ古候共下着にも可爲停止帷子之儀中之晒迄は不苦候然間其假名を書記御目付衆え可被差出置事

付右之者共之妻子幷千石以上之衆局等之銀有もの一兩人家老分之衣類同前に被差免候間是又男女付立御目付衆え可被差出置事

付又内醫者之儀も千石以上之衆家老分同前之衣類被差免候間是又御目付衆へ假名付立可被差出置事

右之通候條下着羽織被差免候通りの男女名付一兩日中に御目付衆え可被差出候左候て向後入替り有之候はゝ其時々御目付衆え可被付届候右の分に候故局なとを始上には絹の類一切不被差免候右の御書出は下着之事に候此段被入御念候事肝要に候振舞の儀は去年被仰出間も無之に付御知せ不申候以上

元祿十
丑ノ三月四日

藏田孫右衛門
吉井平右衛門

五日毛利内膳元平參勤發途四月四日着府

四月朔日公着府

同日萩四社へ名代ノトキ從者左ノ如シ

宮崎春日椿伊豫八幡ヘ御名代人張

一馬　一鑓　一挾箱

一若黨貳人　一草履取　一立笠褐羽箱雨降候時計

右不依大小身如此被相定候以上

元祿十壬

四月朔日

同日毛利飛驒守元次婚儀ヲ舉ク松平播磨守輕隆女

二日暮使閣老土屋相摸守來邸慰問公拜謝例ノ如シ

十二日夜天長院死去吉川監物室久我ニ由リ江戸ヨリ雜賀三郎兵衛ヲ岩國ニ遣シ弔大納言息女也

問セシム此時萩市中鳴物高聲停止三日間

同日公江戸留守中在勤役員歸國命セラルモノ左ノ如シ

御遣小袖下付　麻布邸在勤　兒玉與右衛門

御目付　大和源兵衛

御遣袷下付

同上

御門物頭　湯淺猪右衛門

同　木梨平左衛門

御留守奏者　村上源右衛門

御留守右筆　中山與右衛門

同　相原平左衛門

馬醫御道中歸役　中村作左衛門

御留守居筆者　厚母七左衛門

公儀所筆者　吉田市右衛門

同所御步行　山縣長左衛門

御陸目付　木村茂兵衛

同　下村彌三右衛門

御陣僧　金山利貞

十四日公登營毛利飛驒守同作タリ黒書院ニ於テ謁見太刀一腰羅紗二十間馬代銀三百枚ヲ献セラレ又君夫人ニ縮緬三十卷銀子三十枚ヲ献セラル此時家老一人隨從スヘキ命アリ毛利市正供從拜謁献物例ノ如シ

十五日毛利飛驒守元次賜暇五月十五日江戸ヲ發ス

二十五日大目付安藤筑後守公儀人ヲ招キ地圖改正ニ關シ授與書付左ノ如シ

覺

檜崎利清
高橋寄專
久阪慶佐
上領仙菴

御用方役人

矢倉都合人　井關長左衛門
檢使　兒玉勘左衛門

一今度國繪圖御改付其國之繪圖請取之方より萬事承り候儀無相違樣仕繪圖被致候方之差圖次第に仕候樣に可被相達候事

一大身小身によらす國郡村銘々書付壹萬石以上幷寺社領者井上大和守壹萬石以下其外御旗本之分は安藤筑後守松平美濃守方へむより次第幷組付支配有之面々は其頭之支配より書付揃候て差出候樣に可被相觸候事

一御書物藏に有之國繪圖當分借渡し一覽之以後返し候樣に可被申渡候事以上

二十七日大目付公儀人ヲ招キ古金銀ト新金銀ト交換ニ關シ授與書付左ノ如シ

覺

金銀吹直に付古金銀は新金銀と彌引替可申候御料は御代官私領は地頭より申付至遠國迄古金銀不殘樣に引替させ可申候古金銀之儀來寅三月迄は只今之通新金銀と一樣に用之其以後は古金銀通用相止之新金銀計可用之間可存其旨候若滯儀有之は金銀吹直之場所迄可申出候以上

丑四月日

二十九日元祿八年ヨリ此月二十八日ニ至リテ犬小屋ニ送ル犬ノ數ヲ書上セシム總川十五代史

町方ノ犬中野大久保兩御園ヘ納候犬數同十月書上高四萬二千百八疋同新御支配御園ヘ納高去子六月書上高千九百疋右之外出生犬貳千八百八十一疋殘犬五十五疋三口合納高四萬八千七百四十八疋殘リ犬五百五十一疋ナリ

五月四日毛利甲斐守綱元江戸ヲ發ス

十五日甲府中納言綱豐卿邸ヘ將軍臨御ノ命アリ公行テ之ヲ祝ス

十九日寺社奉行井上大和守公儀人ヲ招キ地圖改正ニ關シ授與書付左ノ如シ

國繪圖仕立樣之覺

一繪圖紙越前生漉間似合上之紙裏打は厚キ美濃紙一篇可被仕事

一分割之儀は右繪圖之分割ニ仕向輪道筋は一里六寸之積りに墨に而星可被仕事

一郡墨筋之內に郡之名記可被申事

一郡色分ヶ不紛樣ニ可被仕事

但郡境あさやかに墨筋引可被申事

一村形之內に村高を記可被申候事

但高之儀は石切に仕其外は何石餘と書付可被申候

一墨紙に郡色分け之目錄幷郡切高付

一國々高郡合書付可被申事

一墨紙に郡切之村數幷一國之村數記之可被申事

一右新繪圖之表に書記候國郡銘々村高帳面に仕立可被差出候事

一墨紙に繪圖仕上ヶ之人々名年號月付記可被申事

一御領私領寺社領之高仕分ヶ無用候尤御代官地頭之名書も無用之事

但古繪圖に有之寺地宮地等之形者如前之記可被申候

右之本に借候古繪圖國々調樣に不同候故如此書付相渡候古繪圖考此書付無相違樣に可被仕候以上

丑五月

國境繪圖仕立樣の覺

一國境近所古繪圖に有之寺院堂社川筋道筋池沼其外何れにても所々兩國より不書出候樣に可被相改候事

一浦方有之國者小島抔有之所是又兩國より不書出候樣可被仕候但境目の中に當り候所者兩國より書載可被申事

右の分隣國の致繪圖候人と申合遂吟味一方より書上候樣に可被仕候尤右の外何のしるしも古繪圖に無之所前々之形ちに可被致置候以上

丑五月

覺

一寺社領の所付書付井上大和守方より相渡候も有之候又遠國の分は最寄次第寺社より直に繪圖被仰付候方え差出候樣にと申渡候へ共相殘候も可有之候間彌被致繪圖候方よりも一國切に可被相尋候以上

丑五月

廿四日江戸邸御中間の惣舍ニ夜亥牌以後點燈セシニ依リ御中間拾六人ヲ過料ニ處ス

六月朔日赤川友之允市川左門文學ニ精勵シ門田與市郎長刀ヲ研究ス皆幼年ナリ後來ヲ奬勵シ米五俵宛ヲ給與ス

四日諸臣采地之内許可之開墾地其他境界ニ關シ當職郡奉行ニ訓示左ノ如シ

覺

一御家來中知行所之内之開作之儀前々より被差免來候一郷一村取切之衆は格別久組之知行散石にて拜領之衆は强開作所無之筈に候處根石不相應之開作申出衆有之候入組之下地持衆は相給主えも相談之上可申出儀勿論に候處相談も無之先勝之樣に被申出と相聞候如此に候ては且諍論之端且公領他領をも被掠取首尾に候因茲此度僉議之上向後之儀は開作所之ほのき委細書付被仰付其田其畠之畦並に有之山野計被差免田畠を離候山野之儀は被差免間敷候雖然田畠を離候所たりとも面々領分之山野於無紛は可被差免候條左樣之所は御所務代衆

直に見分候而可被申出事

右之辻を以無依怙盗負物切慥に相究榜示を立引渡候樣に可有沙汰候若安之儀於有之は地下人は不及申御所務代衆も可爲越度候尤領分にて無之所を領分と號し申掠衆於有之は一廉曲事に可被仰付候以上

元祿十壬
六月四日

林　小左衛門　左　　佐主殿
馬木五郎左衛門　左

同日寺社奉行公儀人ヲ招キ國繪圖一里塚ニ關シ授與書付左ノ如シ

覺

一國繪圖一里塚之儀總樣分割壹里六寸之可爲積旨最前書出候へ共右一里塚之印只今迄古繪圖に長短有之候段是は國風に而一里之町歩通り例三十六丁に不合所有之と相聞候然上は其國之古繪圖に有之通一里塚之印可被置候乍去壹里六寸より延して繪圖に有之國は其國之一里を改通例之一里之町歩より延候はゝ古繪圖之通用可置候若も國々に通例之積り之一里塚有之は繪圖に壹里六寸之積可被置之一里塚之長短いつれも可準之事

六月

五日萩城外郭菩提所洞春寺土留ノ石塀頽敗ニ由リ修築伺書幕府承認セリ

十日豐浦郡一ノ宮二ノ宮神主石井相摸下社人西島左京ト爭論ヲ起ス糺問セシニ相摸モ左京ニ對シ不正ノ行爲アルモ左京ノ奸惡ヨリ發シタルニ由リ過料ニ處ス左京ハ種々之調略ヲ以テ神主ト稱シ出京吉田ニ於テ祠官之裁許狀ヲ受ケ本神主之石井相摸ヲ掠メ又社頭ノ棟札ヲ削リ代官ノ裁決ヲモ受ケス暴戾違法ノ行爲ニ由リ裁許狀ヲ沒收シ牢舍ヲ命ス

十三日井伊掃部頭大老ニ任ス公往テ之ヲ祝シ使者ヲ以テ太刀金馬代一荷二種晒五十匹ヲ贈ラル

二十一日吉川勝之助幼冲家ヲ繼キ天長院遺言ニ由リ勝之助逝德院ヨリ使者ヲ出府

セシメ公ニ吉川家維持輔導ノ依頼アリ同日大組御中間頭木原庄左衛門組所務代肝煎組中ノ計算書ニ惡計アリ組中ノ不服ヲ抑制シ其後所務代肝煎ノ私欲判然セシモ審問ヲ爲サス所務代肝煎ニ一任シ組中ノ訴訟ニ判斷ヲ與ヘス組頭トシテ惰慢ノ形蹟ニ依リ知行減少隱居ヲ命ス所務代吉左衛門ハ重罪ニツキ死刑ニ處シ肝煎八郎右衛門ニ國退ヲ命ス

二十二日令シテ井伊大老ニ拜禮並音信等スベテ老中ノ如クナラシム德川十五代史

晦日幕府貨幣之制ヲ定メ貳朱ヲ鑄ル其文左ノ如シ德川十五代史

一今度新金ニテ貳朱判世間ニ相渡候通リ自由ノ爲ニ候間國々所々迄其旨ヲ存商賣請取方渡方無滯貳朱判ヲモ用可申候貳朱判ハ壹分判半分之積タルベキ事

一大判小判一分判有來ル通リ通用可申事

一前ニ相觸レ候通リ假セ金銀仕者ハ訴人ニ出ベシ假同類タリトイフトモ其科ヲユルシ急度御褒美ヲ被下仇ヲナサヾル樣ニ可申付候

一スベテ金銀ノ細工仕候者ハ其所ニテ心ヲ付少モ疑敷義ヲ及見聞候ハヾ早速可申出隱置外ヨリ顯ル、ニ於テハ本人ハ不及申親類幷ニ所之者モ可爲曲事者也

同日我藩大阪土佐堀ノ屋敷並地ヲ購入セリ

此月勘姫（綱豊公第十子）縁職ノ事永田馬場夫人其他兄弟ハ協議終了報告ノ爲メ引田傳大夫ヲ歸國セシム

此月幕府諸藩内大罪人處分之制ヲ定メ萬石以上ニ令ス德川實紀

萬石以上の輩に令せられしは逆罪火賊ある時其藩中限りにて他にあづからざるは伺ふに及ばずすべて官の刑法に准じ罪科に處すべし但し他に關係せる事は直月の老臣へうかがふべし遠流すべきものありても封内に島なからんは永く繫獄するかあるは親戚等へきびしく預けをくべしとなり

七月四日在郷住宅人ニ關シ遠近方ヨリ通告左ノ如シ

一在郷住宅之衆地下之支りに於相成は或所替或出萩可被仰付之通先年被仰出候然處山口廻り住宅之諸士寺院不心得之衆有之而地下之妨に相成樣に被聞召及候因茲愈不心得之衆於有之は尖に申出候樣にと御座平右衛門え以御書付被仰渡山

口住宅之衆爲心得候間右之趣被仰知可然存候爲御内意如此に候以上

元祿十
七月四日

藏田孫右衛門
吉井平右衛門

五日公初テ柳澤出羽守保明ヲ訪フ

八月十二日公儀人ヲ以國光五百貫ノ腰刀二干鯛ヲ添ヘ贈ラル嫡子兵部ヘ紹縮十端箱肴一種其他家老用人ヘ進物差アリ

二十日御中間扶持切米借物等ニ關シ當職藏元兩人ヘ訓示左ノ如シ

覺

一御中間扶持切米借物等其外總之事迄も毛頭無私欲可致廉直之沙汰此上依怙於有之は其頭可被處嚴法旨先年以御黑印被仰出候然は御扶持方配當之儀肝煎所務代算用狀を頭々月々見屆配分無相違樣に可有沙汰候御切米之儀は到暮右同前之詰りに可有沙汰事

付旅役之者之儀は本人御國に不罷居事候間猶以可被入念事

一借銀借米之儀不依多少頭々承屆貸渡相調候時も亦承屆借候者貸候者双方損不仕樣に明白に可有沙汰事

一組々之小貫(ツナギ)多令迷惑通に候間不入費不仕減少候樣に頭々無懈怠可有吟味事

一與之米銀與頭借用一切停止之事

一組々之算用窮人數改不圖可被仰付候事

一肝煎所務代共相組中之儀付而諸事私不仕樣に頭々無緩可有沙汰候若我まゝ仕者於有之は與頭迄可爲越度事

一御中間共不依何分際不相應之仕形於有之は其者は不及申與頭迄可爲越度事

右之通御中間六尺組頭中え手壓可被申渡候若相背妄之儀於有之は一廉可爲曲事候以上

元祿十丑
七月廿日

佐主殿

粟屋喜兵衛左
桂五左衛門左

八月二日松平出羽守姫君（後ニ公ト緣約成ル）雲州出發同晦日江戸着

十日長門萩松本ニ於テ惡銀ヲ僞造シ市中ニテ使用セシトノ告訴アリ松本ノ佐右衛門善兵衛彌右衛門少笠原仁左衛門下屋敷番權助ヲ逮捕シ究問セシニ石州濱田領（松平周防守）片庭村三郎右衛門ナルモノ惡銀ヲ萩地ヘ携帶共謀僞造セシヿ白狀セリ依テ之ヲ幕府ヘ報告シ且處刑ヲ伺ハレシニ町奉行松前伊豆守授與セシ書付左ノ如シ

似せ銀いたし候當人磔男子死罪妻幷女子は奴に罷成候事（奴トハ人ノ下人又養ヒ子ニ遣スヲ云）

十月十一月刑罪除日

朔日　二日　五日　七日　八日　十五日　十六日　十七日　十九日　二十日
二十三日　二十四日　二十八日　二十九日

十月二十六日惡銀僞造人佐右衛門善兵衛彌右衛門權助ヲ磔ニ行ヒ權助男死刑ニ處ス

二十日檢使羽根喜平次裏判方木村九郎兵衛伊藤彌兵衛御手紺屋吉松新兵衛謀書ノトキ僞造證書ニ調印セシハ違法ニツキ職務ヲ免ス

二十七日脇役者高島九右衛門家計窮迫ノ爲メ永久賜暇申請ニツキ家業ヲ禁シ家人ヲ放チ國退ヲ命ス

九月十二日將軍柳澤出羽守カ邸ニ臨ム萩生惣右衛門周易ヲ進講ス

十五日村田永自御手回組ニ加ヘラル公書學ノ爲ナリ

十九日勘姫成長ニヨリ毛利阿波嫡子左門就豐ニ婚姻スヘキ旨ヲ高須藤兵衛ニ命シ歸國セシム是日阿波邸ニ抵リ公ノ親書ヲ授ケ公旨ヲ演達ス

二十日內藤紀伊守夫人（綱廣公第二子）ニ付屬セシ井原勘右衛門夫人ノ要請ニ因リ寄組ニ進メラル

二十六日曩ニ蓮花寺法會之トキ法花寺日迅ト妙性寺日進ト坐論起ル蓮花寺仲裁ヲ以テ解決セリ然ルニ妙性寺日進隱居シ日鮮住職トナリ入院報告ノ爲メ出京シ最前

ノ坐論ヲ再燃セシム元來法花寺上班タルヲ妙性寺口實ヲ設ケ既ニ裁決ノ事件再ヒ告訴セシハ違法ニツキ隱居日進當住日鮮遠島ニ處ス

蓮花寺落着ノ事件再發ニ至リ暫時ノ調停ト申告セシハ妙性寺ヘ荷擔シタルモノト認定閉門ヲ命ス

二十八日毛利阿波邸ヘ高須藤兵衛ヲ招キ勘姫ヘ納采ノ式ヲ行フ

十月七日勘定奉行公儀人ヲ招キ酒造稅銀收納ニ關シ授與書付左ノ如シ

覺

一酒商賣人多く下々猥に酒を呑不届成儀共仕候に付今度酒運上取立運上に應し酒之直段高直に成下々酒多給不申積就夫酒屋減候分は共通に候事

一運上之儀江戸幷御料は公儀え相納私領方は地頭え可取立候事

一運上之員數只今迄酒商賣直段五割程も高直に成候積運上取立可申候酒善惡に應し直段高下就有之少之過不足は無構大概右之通取立可申事

一江戸者御用相達候御酒屋共之內四人右之改幷運上取立申筈に候在々は御代官より相改手代相廻し運上取立申筈に候但酒屋家數多き所は御代官手代計にては改委細に難成に付其所之酒屋之內一兩人歟三四人程も酒屋數に應し改幷運上取立之儀を申渡し取立候筈候事

一運上取立候役義申付候酒屋は手代なと差證共儀に付入用筈懸り候積を以失却無之少々德分有之樣に入用取せ申積に候之間私領方にても共心得可有之事

一右改幷運上取立之役相勤候酒屋も自分造り候酒之運上は人並に出し可申事

一運上之儀造酒屋計取立請賣之酒屋は不及運上候たとへは他領之造酒屋より請賣仕候酒屋有之候はゞ何方より請賣候哉買本を開届賣せ可申候何れの道にも彌重に不成運上取落しも無之樣に可有吟味事

右之通爲心得書付候以上

十月

十二日江戸大地震アリ

十六日益田孫左衛門之大與頭役ヲ免シ來年江戸御守居トシテ出府ヲ命ス御留守ノ

目付野村作兵衛矢倉方郡合人井關長左衛門大檢使神田忠右衛門御右筆中山與右衛門楢原平右衛門外科醫大中玄順ヱ出府之命アリ大與頭繁澤二郎兵衛ニ來年公歸國謝恩使ヲ命ス

十七日江戸大塚町ヨリ失火シ芝麻布マテ燒ク老中阿部正武行向テ消防ヲ指揮ス府内大火アル毎兩老出馬シテ之ヲ指揮シ急ニ大名ニ命シテ消防セシムルヲ例トス

十一月四日大組頭益田孫左衛門轉任ニヨリ先組ノ所管ハ月番ノ組頭ヘ命シ證人所證人添役任命等益田隼人先組所管ノ如シ

六日將軍親ラ罹災ノ地ヲ巡視ス

同日桂久右衛門之物頭ヲ免シ目付役ヲ命ス伊藤喜右衛門桂久右衛門ニ代リ大與鐵炮頭トナル乃美五左衛門之手回組頭ヲ免シ横山勘兵衛ニ後任ヲ命ス

十日長崎四郎兵衛保管山伐採ニツキ違法アリ父子共山口管轄之居住ヲ禁シ保管山ヲ沒收シ逼塞ヲ命ス

十一日吉川勝之助公契約ニテ髮置ノ式ヲ行フ母蓮德院ヨリ請願ニ依テナリ公髮置ヲ祝シ置綿一袋末廣一本水引一把臂一本櫛一對夾刀一本小袖三太刀小馬代二種一荷ヲ賜フ勝之助ヨリ太刀馬代一荷二種綿紗十卷蓮德院ヨリ綿十把干肴一折ヲ献ス

十二日將軍甲府綱豐ノ邸ニ臨ム吾藩ノ隣邸ナルヲ以テ火事其他警戒頗ル嚴ナリ

十四日將軍柳澤出羽守保明カ邸ニ臨ム是時奉行等ノ公事ヲ聽斷スル樣ヲ覽ルカ爲ニ別ニ場所ヲ設ケ三奉行列坐シ井伊藤堂酒井忠畢老中若年寄側衆大小目付列侍シ訴訟ノ者呼出シ十五件ヲ聽斷ス

同日幕府吾藩ヘ山王火防番ヲ命スルニ由リ御中間以下百五十人ヲ出府セシム

十八日金銀改鑄ニ由リ古金銀交換ニ關シ諸臣ヘ訓示左ノ如シ

覺

一金銀吹直就被仰付候古金銀不殘引替候樣古金銀の儀來寅四月よりは通用仕間敷の旨當夏秋兩度被仰出候付て其旨度々相觸候然者御國中過半新金銀の通用有之樣に相聞候へ共自然古金銀引替の手遣不相成者有之時のため上方町人三木權大夫被成御頼古金銀上り次第無滯引替仕筈候條面々心遣にて引替相成間

敷ヒ存者於有之其古金銀從公儀三木方え被差上新金銀引替被仰付可被遣候條
古金銀の不依多少來正月十一日を切下々至迄引替の儀申出候樣與中えも可被
申觸候已上

元祿十年丑
十一月十八日

別ニ市郡ニ對スル訓示アリ畧同一ヲ以テ錄セス

二十一日大酒制禁ニ關シ市郡へ訓示左ノ如シ

覺

一大酒は前々より御制禁に候酒呑候事人々の分に過候へは心ならす不屈出來申
ものに候條面々可相愼事
一振廻の時たりとも主客ともに酒強申間敷事
一醉狂之者於有之は其身は不及申酒強候者迄可爲越度事
一下々共酒屋へ參酒呑候とも酒屋共酒強申間敷候事
右今度酒運上之儀被仰出候も酒呑過不慮之儀仕候儀有之付而運上之儀被仰出
酒高直に成買候儀成兼候樣にとの御事候條右之趣裁判中へ念を入可被申觸候
以上

元祿十丑
十一月二十一日

別ニ諸臣ニ對スル訓示アリ畧ス

同日酒造稅金ニ關シ町奉行へ訓示左ノ如シ

覺

一今度酒運上之儀常々之直段に五割上りに被仰付候通於江戸被仰出候就夫當所
之儀も直段御上け被成候委細之儀は御客屋より可申聞事
右之通當所酒屋中え可被申渡候以上

元祿十丑
十一月二十一日

兒玉七郎左衛門尉

二十九日御手紺屋吉松新兵衛奉來染物代價ト稱シ壓僞造證書ヲ爲シ謀書謀判僞印

ヲ以テ多大ノ銀子ヲ窃取シタルハ重罪ニ因リ磔刑ニ處ス矢田櫂右衛門未定方在勤中收納銀ニ關シ不良ノ形蹟アリテ判明セス因テ家人ヲ放ツ岸猪右衛門山口ニ於テ保管山松木伐採ニツキ代官ヘ申告ト齟齬スル所アリ切米三石沒收山口管轄ノ居住ヲ禁シ逼塞ヲ免ス山口下代白根七右衛門岸猪右衛門伐木申請ノ紹介ヲ爲シ不注意ノ廉アリ逼塞ヲ命ス

十二月三日毛利一格宣勝死去使者ヲ以テ弔書及香銀五枚ヲ賜フ

十一日竹内吉兵衛組御中間宇左衛門ナルモノ湯川平右衛門エ不遜ノ行爲アリ御手回ノ足輕中間エ對シ御手回組頭宍道玄蕃ヘ訓示左ノ如シ

覺

一今度竹内吉兵衛組之御中間宇左衛門と申者於山口荒高町湯川平右衛門に行逢木履をはき令慮外候足輕御中間等對諸士慮外仕間敷通は兼而被仰出候處宇左衛門作廻甚不謂儀に候因茲宇左衛門事誅伐被仰付候然は御手廻り之足輕御中間等御城下在々にをいても縱知人にて無之候とも對諸士慮外之體候はゝ兼而被仰出候通に忽御仕置に可被仰付候依品與頭も可爲越度候以上

元祿十丑十二月十一日

大組足輕ニ對シ益越中及ヒ御城代組エモ此訓示ヲ授與ス

同日大與御中間頭ヘ對シ御藏元兩人ヘ訓示左ノ如シ

覺

一今度竹内吉兵衛組宇左衛門於山口荒高町湯川平右衛門に行逢木履をはき慮外仕候御中間等對諸士慮外仕間敷通は兼而被仰出候處甚不謂儀に候因茲宇左衛門誅伐被仰付候吉兵衛儀も宇左衛門申出不遂僉儀不しまり之儀を公儀え申出候付而逼塞被仰付候吉兵衛世忰五郎左衛門儀は江戸へ罷上候故宇左衛門御仕置に被仰付候段殘頭中へ被成御聞せ候之條此段可被申渡候事

元祿十丑
十二月十一日

惣之御中間頭ヘ對シ御藏元兩人ヘ訓示アリ略ス

十二日御中間宇左衛門山口荒高町ニ於テ湯川平右衛門ニ不遜ノ行爲アリ萩大屋村ニ於テ磔刑ニ處ス

案スルニ湯川平右衛門ノ違法ハ公聽ヲ經サレハ處分スルヲ得ス宇左衛門ハ足輕以下鑑戒ノ爲メ江戸ヨリ之回報ニ先チ老臣議決刑ノ執行ヲ爲セシナルベシ

二十五日萩松本櫻江渡船冬期風雪ノトキ來往頗ル困難又石州ヘ交通自他國人民最不便ヲ感スルニ由リ假橋架設圖案ヲ以テ幕府ヘ稟議セラル其文左ノ如シ

覺

一私城下長門國萩城ヨリ一里程東ノ方石州海道筋船渡ノ川御座候同所十七八町南之方船渡ノ川御座候風雪之時分他國往來之者在々之者到迄致迷惑候間此所冬之内假橋申付度奉存候右兩所間數二十間程御座候尤市中續にても無御座此所民屋にて御座候依之奉得御意候以上

十二月二十五日　　松平大膳大夫

備考書中同所十七八町南ノ方船渡トアルハ櫻江ヲ謂フカ此橋ハ長福洲崎ノ角ヨリ新道ノ方ヘ架設スルト伺ヒ圖面ニ見ユ

月日不詳　吉廣公記

鶴江山上西北之邊へ輕キ御茶屋有リ廣大ノ平山ニ家ナク無人ニテハ空虛無備ノ地ナリトテ御心持有之建調被仰付ト云此說年月不明ナルベシ

當年御馳走拾六石掛リ

山代宰判楮撿使被仰付（原本明年トス山代温故錄ニ據改ム）

山代温古錄ニ云或問曰山代往古ハ村里も狹く居民鮮少なりしと云り然るに何れの頃より村里廣り人民多く成たる哉願くは其詳なる事を聞ん答曰今民家の往々傳る處の舊記を考るに往古一縣を稱して六郷七畑と云又五ヶ村八ヶ村とも稱せしとかや文明長享の頃深山の際に田圃の有し時は租稅八百石成りと云傳ふ大永三年撿使有之五ヶ村は内藤帶刀隆安八ヶ村ハ杉藏人良久賦稅を改千八石を出せりと云り其後天正十七年長井右衛門大夫内藤筑後守檢地して高五千三百石餘となれりとなり永祿年中より楮を植て紙を製し是を鬻て利を得る

故に村里繁榮して山野を開き田地大に廣る慶長十二年三井但馬守遠藤六郎兵衛是を改高壹萬九千石餘になりしと也此時村邑分り定る本郷一邑を分て六ッとす市郷宇塚本谷黒澤秋縣是なり如此村里次第に分りて繁昌し元和八年之頃熊野藤兵衛是を改て高四萬八千石餘と成しと也寛永中より製紙を御買上けに成彌繁榮民力年々に盛なるゆへ山野を開き田圃廣まり貞享三年田畠楮點檢あり湯淺小右衛門厚母四郎兵衛是を改高五萬八千八百石余となれり楮は年序を經る時は增減ある故に原額の改る事昔より度々也初め承應二年に改りて明暦二年寛文七年延寶四年天和三年貞享四年也其後元祿十年に點檢有而定る處、三拾三邑之楮六萬貳千三百七釜六把壹歩と成半紙單にして貳萬九也此外に楮買銀紙四千七百九餘り又此外に地下紙と號し凡五千九も漉出せり然は楮拾萬釜も有しと見へたり山代の繁昌此時を盛なりとす人民日々に繁茂して人數通計貳萬九千人に餘り民家六千軒に餘れり此内にて紙を漉家貳千六百九拾軒餘也是官廨に記す所原額之漉家也定の外に私に營み助精せる者亦多し是を助船と云り云々下略

享德寺達磨堂建木像西法寺開祖大愚作

元祿九子十壬御在國中諸事小々之扣目錄拔萃左ノ如シ原記錄散逸

公方樣へ爲年始ノ御祝儀御使者被差上候事毛利内膳樣御勝手向之儀ニ付而熊野五郎右衛門萩に被差出候事

毛利藤太郎袴着御契約之事

毛利久馬允部屋へ被成御下候事

山内縫殿老中ニ被仰付候事

毛利久馬允へ御具足拜領被仰付候事

無給通眞鍋左兵衛世忠三郎國退被仰付候事

自身役并在郷被差免候事

船木瑞松菴先々住并先住遠島國退御赦免之事

御所帶御仕組ニ付御家來中へ追而御馳走米被仰付候事

殺生之儀ニ付御家來中へ被仰渡候事
役替り以後拜領物被仰付候面々之事

246
42
23イ

明治四十一年八月十一日印刷
明治四十一年八月十四日發行

公爵毛利家藏版（非賣品）

東京市芝區白金猿町六十一番地
編輯兼發行者　大田報助

東京市四谷區元鮫河橋南町八十八番地
印刷者　村田峰次郎

東京市京橋區木八丁堀一丁目九番地
印刷所　合資會社晩成社

不許複製